

(参考様式)

新県立大学基本構想（素案）に対する意見

個人／団体の別	個人 / 団体 （※いずれか該当する方を○で囲んで下さい。）
氏名／団体名	中野清史
ご住所	
連絡先（電話番号 又はメールアドレス）	

該当箇所	ご意見
1 ページ：趣旨 大学の理念	<p>素案の趣旨、大学の理念が一般概論的な表現に止まり、長野県が県立短大を4年制の大学にしなければならない必然性、建学の精神の理念が感じられない。また、グローバル化や情報化、少子高齢化はわが国全体の問題であり、その中で、長野県固有の課題は何であるかの分析もなく、記述もない。少し具体的にいいましょう。</p> <p>「長野県や日本の文化・風土の根ざし」で、どのような教育をするのでしょうか。</p> <p>「公共政策の分野」ではどのようなイノベーションを想定しているのでしょうか。イノベーションはむしろ国の問題で、政策立案できるような人材育成は県立大学のミッションである必要があるのでしょうか。また、社会科学でのイノベーションとはどういうことでしょうか、IPS細胞ではないですが、イノベーションはむしろ自然科学の分野の課題で、新しい技術や製品の開発や発想に求められるのではないのでしょうか。</p> <p>創立されて80有余年間、長野県のために県短大の果たしてきた役割と成果は具体的には何だったのでしょうか。</p> <p>そして、これから80年、100年後、長野県が短期大学でなく県立大学として人材育成しなければならない長野県としての必然性、必要性は何なのでしょうか。</p> <p>明治維新以降、長野県における高等教育機関の設立については、設立の古い順に現在の長野高校（旧長野中学校）、長野西校（旧長野高等女学校）、長野商業高校（旧長野商業学校）、長野工業高校（旧長野工業学校）、更級農業高校（旧更級農業学校）などの学校史に詳細に記載されています。市立、郡立、村立、市立など、建学時には資金的にも大変ご苦労された様子も書かれています。そして、建学の精神として一貫していることは、国づくり、地域づくりの原点は「人づくり」にあり、新しい国や地域を建設するには近代的な工業、商業、農業の知識や技術が必要であり、そのために学校をつくり、今日の長野県の基</p>

礎をつくってきたことが理解することができます。

これらの学校史を一読されれば、いかに優秀な人材を育成してきたか、それ故にかつての長野県教育の理念、「教育県長野」といわれた原点がどこにあったのか、新たな県立大学の研究領域の参考になるのではと考えます。

明治維新以降、生糸は最も重要な日本の産業であり輸出品でありました。長野県は江戸時代から養蚕が盛んで明治の中頃には国内有数の製糸王国となりました。しかし、大正末期には安価な人絹や中国産の生糸に取って代われ衰退。その後、諏訪市でのセイコーエプソンの前身の大和工業の誘致や、長野市での富士通など疎開工場の隆盛などにより精密工業の一大集積地に成長し、これまでの長野県産業をリードしてきました。

しかし、こうしたいわゆるハイテク産業も、中国や東南アジア、インドなどの新興国の台頭とともに県内の多くの企業が生産拠点をこうした国々にシフトするなど、県外への工場の移転を含め県内産業の空洞化のテンポは止まっていません。特に本県は加工組立型の産業が多く、海外や県外への事業所のシフトは働く職場の確保においても大きな課題となっています。

県内の事業所数、従業者数、製造品出荷額などが長期に減少の傾向を示していること、また、県内の個人所得額の減少や人口の減少は、長野県全体の体力が落ちている証拠の一つとも言えるのではないのでしょうか。

長野県の産業をどう立て直していくのか、現下、県内にある国公私立の高等教育機関が、共通に課題解決に取り組まなければならないテーマであります。

信州大学とは別の観点から、明治維新、戦後の昭和維新、そしてグローバル世界での新たな長野県の産業構造や、全国に先駆けての長寿県、長野県の人々の健康や福祉、そのための教育や政治を考えることが重要ではないのでしょうか。

語学教育、特に英語教育に重心を置きすぎているのではないのでしょうか。私は、語学は道具であり、必要があれば教育機関でなくとも学べると思っていますが、敢えて語学教育を行いたいのであれば、「外国語学科」或いは「多言語教育学科」のほうが分かりやすいのではないのでしょうか。多く外国語大学は、学んでいる語学を教育やビジネス、専門分野での通訳や翻訳などに職業として活用できるよう多文化理解教育など様々なカリキュラムを採り入れています。構想の英語教育はどのレベルを目指しているのでしょうか。

<p>3 ページ</p> <p>1 年間の全寮制</p>	<p>1 年間の全寮制で、1 年生は留学生とともになぜ原則として全学生が寮生活をしなければならないのでしょうか。また、セメスター又は 1 年間の留学義務は、全寮制とどういう関係になるのでしょうか。</p> <p>「総合マネジメント学科」と「グローバルこども教育学科」の大学に留学生は何を学びに長野県に留学されるのでしょうか。</p>
<p>4 ページ</p> <p>主体的に課題解決する実践力の育成</p>	<p>長野県は学力低下の問題も抱えています。</p> <p>推薦入試やほとんど競争率のないよう事前調整される現状の入試制度により、短大や大学に入学するまでほとんど競争することなく過ごしてしまう教育環境の中にいる学生達は、最後の就職戦線において過酷な競争の運命に遭遇することになります。そうした環境の子ども達を主体的に課題解決できる実践力のある社会人に育てることは、並大抵の努力では果たし得ません。</p> <p>私は偏差値至上主義ではありませんが、ビジネスや公共政策の分野でイノベーションを起こすことのできる人材を育成するには、新たな県立大学はどの程度の教育レベルを目指されるのでしょうか。例えば、偏差値で表すとしたらどのようなレベルの受験生を想定されているのでしょうか。</p>
<p>結論</p>	<p>秋田国際教養大学と同じような大学は長野県には必要ありません。</p> <p>明治維新以降、現在の信州大学の前身をふくめ、長野県は地方行政の担い手と産業立県をめざして県立、私立、郡立、私立など社会や地域の要請をもって高等教育機関の設立に取り組んできました。これについては前掲のとおりであります。</p> <p>現状の長野県の姿を直視してみてください。何一つとっても冬季オリンピック開催以前の「元気」があるのでしょうか。県内経済指標はどのような数値を示しているのでしょうか。そんなときになぜ、「一般教養系の大学構想」なのでしょうか。</p> <p>足下を見つめ、そして固めるために 10 年後、30 年後の長野県の産業のあるべき姿と、その目的の達成に必要な人材の確保・育成を新たな県立大学の構想に反映するべきではないでしょうか。</p> <p>長野県の産業基盤として重要なことは、第 1 次産業を見直し、再生して輸出産業に業立県することにあります。また、国内の有数な観光地として長野県の「豊かな自然」がありますが、中山間地域の景勝は自然と一体を成す貴重な要素であります。そして中山間地域の保全是災害防止においても重要なことで、それは中山間地域でもできる農業の保障であり、薬草栽培は野生鳥獣対策としても有効な農産物と考え</p>

	<p>られます。</p> <p>薬草市場については、WHO が 2015 年に国際疾病分類に漢方を含む東アジア伝統医学を盛り込むことを検討しているとのこと。また、日本の漢方の世界は、医薬品としては 1,300 億円程度ですが、健康食品やサプリメント、化粧品では 2.6 兆円のマーケットがあります。県内の新規法人の設立も減少です。海外移転のできない農業は発想の転換によっては新たな基幹産業に成長する可能性があります。本市の特性にあった作物の開発、そして 6 次産業化、中山間地農業の活性化や荒廃農地の再生、災害防止などにおいて、薬草栽培は発展性をもった戦略作物ではないでしょうか。</p> <p>長野県は江戸時代より奈良県、富山県と並んで薬草の生産拠点でありました。薬草市場に今後の長野県の農業の将来性を見据え、薬剤師の養成はもとより、県内の製薬企業との連携による新薬の開発や薬剤知識を得た企業人や社会人の育成など、薬学部を県立大学として設立することは、これまでの県内産業にイノベーションを起こす可能性をもっているのではないのでしょうか。</p> <p>薬剤師は飽和状態ではなく、ドラッグストア、高齢者などの在宅医療や福祉施設、中小の病院などでの薬剤師の役割は拡大しております。私立では多額の学費がかかる薬学部が、公立で設立されることは、志願者にとっては大変魅力であり、一定レベルの学力の確保もできます。学の設立経費がかからないからといって安易に一般教養系にシフトすべきではありません。また、保育士及び幼稚園教諭の養成は、県立で行う必要はなく、一定の経過措置を設け民間に任せるべきであります。</p> <p>以上、私見を述べさせていただきました。</p> <p>長野県の現状を直視し、長野県に必要な人材を育成できるとする間違いのない新県立大学の基本構想に見直していただきたくご検討をお願い申し上げます。</p>
--	---

上記の様式によらず、任意の様式により提出いただいても構いません。

また、住所、氏名等の記載は必ずしも必要ありませんが、意見の内容について確認を行いたい場合や、意見がどのような地域から寄せられたものか参考とさせていただくためにお聞きするものであり、差し支えない範囲でご記入ください。

【提出先】長野県総務部 情報公開・私学課 県立大学設立準備室

郵 送：〒380-8570（県庁専用郵便番号につき住所記載不要）

FAX：026（235）7370

メール：daigaku@pref.nagano.lg.jp